

平成27年度第3回田原市総合教育会議 議事録

1 日時

平成28年2月17日(水) 午前9時～午前10時14分

2 場所

田原市役所 南庁舎4階 政策会議室

3 協議事項

- (1) 田原市総合教育大綱の策定について
- (2) 伊良湖岬中学校の統合について

4 出席者

市長		山下 政良
教育委員会 教育長		花井 隆
教育委員会 教育長職務代理		横田 威
教育委員会 委員		金原 真人
教育委員会 委員		山本 明子
教育委員会 委員		土井 真紀江

5 欠席者

なし

6 会議構成員以外の出席者及び事務局

政策推進部長	中村 匡
教育部長	前田 和宏
教育部教育総務課長	鈴木 努
教育部教育総務課教育企画室長	三竹 雅雄
政策推進部政策推進課主幹	矢口 美英
教育部教育総務課教育企画室主任	清水 綾子

7 傍聴人

10名

8 協議の経過

(政策推進部長)

時間となりましたので、只今から第3回田原市総合教育会議を始めさせていただきます。それでは始めに山下市長からご挨拶を申し上げます。

(市長)

皆さんおはようございます。第3回目の総合教育会議にご出席いただき、ありがとうございます。時の話題ということで、道路、予算、オリンピックについて少しお話したいと思います。

今月13日に新東名が開通し、私も開通式に行っていました。一番感じることは、なぜこちらには道路がないのかということで、私もしきりに言っているのですが、知事にも偶々会う機会がありましたので、うらやましい顔をしながら道路のことを言ってきました。もう1つは中央リニア新幹線が飯田を通り、そして岐阜の山を通過して名古屋の方へ行くというこ

とで、どうしても山間部の方が良くなって来る、また海の方が置いていかれてしまうという悲しい現状を見たということです。もちろんそれで黙っている訳ではありません。要望行動を強くしながらこれからもずっと言っていきたいと思います。

2つめとして、今日の新聞に載りました予算の話です。法人市民税の税率が 12.3%から 9.7%に引き下げられ、将来的には 6%になる、そうしますと本市の法人市民税は、約 30 億円の減額になります。消費税の 10%引き上げ分、交付税として返ってくる分が合わせて約 10 億円ですので、20 億円超が減額となります。もう一つは、合併して 10 年が経ちますと合併算定替の特例が段々と減っていき普通交付税が少なくなっていずれゼロになってしまいます。そうしますと、非常に大きな打撃となります。一時は法人市民税が 110 億円という時期もあったのですが、それが全部なくなるという訳ではありませんが、何れにしても予算の減額が今から起きてきます。今月 22 日に総務省の方と話しをするのですが、なぜ交付税がこれだけ減らされるのかということに抗議しながら話をしてこようと思っています。交付税については多少の裁量の余地があるのかなという風な考え方を私も持っていますので、何としても話をしたいということで話し合う場をお願いし、この 22 日に話をしたいです。

3つめはオリンピックの明るい話題です。補正予算を通していただきまして、PR に努めています。そして当初予算でも PR の予算を上げさせていただきました。この 8 月に決まるまでの間、サーフィン競技を何とか誘致しようと頑張っていて、そうすることによって色々と街づくりに拍車がかかってくるので、一生懸命やっていきたいと思っています。やはり街を変える一つの大きな材料になりますので、力を入れてやっていきたいと思っています。

今日の総合教育会議では、総合教育大綱についてお諮りし、そして、伊良湖岬中学校の統合についての話を予定していますので、よろしくお願ひいたします。

(政策推進部長)

それでは協議事項に入らせていただきます。これからの進行については、本会議の議長であります市長にお願いします。よろしくお願ひいたします。

(市長)

それでは、協議事項に入らせていただきます。協議事項(1) 田原市総合教育大綱(案)について、事務局から説明をお願いします。

(教育部長から協議事項(1)について説明)

(市長)

只今、事務局から説明がありました総合教育大綱(案)に対しまして、ご質問、ご意見がありましたらお願ひしたいと思っています。

(横田委員)

田原市の総合計画が平成 25 年 3 月に策定された訳ですが、改定は 5 年後でしょうか、それとも 10 年後でしょうか。と言いますのは、平成 24 年度末に策定された市の総合計画に沿って、特にその時に作られた教育分野の観点を中心にして、総合教育大綱を私達教育委員は考えてきたのですが、市の総合計画が変わると総合教育大綱も変えていかないとならないというところがあります。市の総合計画はどの位で変わるのでしょうか。

(市長)

総合計画の基本計画は、10 年ですよ。

(政策推進部長)

はい。合併後の平成 19 年に第 1 次総合計画を作りまして、その後、5 年経過したところでリーマンショック等もありまして改訂をしています。特に平成 19 年当時と何が変わってき

たかと言いますと、人口推計、経済状況がだいぶ変わってきました。それで改定版という形でそうした辺を中心に変えました。基本理念や方向性を変えたということではなく、特に人口的な問題、経済的な問題、そういった修正せざるを得ないところを修正し、改定しました。ですので、考え方であるとか方向性を変えたものでは実はありません。大きな改定としては10年後という形になるかと思います。

(市長)

よろしいでしょうか。

(横田委員)

はい。

(市長)

総合計画ですのであまり細かいことは載っておりませんが、大綱にあるような考え方というものはあまり変わらないということですね。他によろしいですか。

(横田委員)

私達教育委員、教育委員会と一緒に大綱を考えてきた訳ですが、お願いが1つあります。ぜひ評価と検証をしていただきたいと思います。作って作りっぱなしではなくて、5年間の計画でありますので、その間に評価と検証をしていただいて、次に改定する場合の資料としていきたいと思いますので、ぜひそこをお願いしたいと思います。

(市長)

お願いというよりも、この総合教育会議の中でその評価もしていく訳です。それはこれからもずっと続いていきますので、当然評価というものはやっていかないといけないと思いますので、お願いするというよりも、この中で評価をしていくということになると思います。その辺は事務局もいいですか。

(教育部長)

はい、そのとおりです。評価・検証をやっていきたいと思っております。

(市長)

その他いかがでしょうか。ご質問だけでなくご意見等どんなことでも結構です。

(金原委員)

委員会でもこの案を作成するに当たって色々な意見が出まして、目指す人づくりの①から⑤のようにまとまった次第ですが、前回の案から手直ししてあるとは思っています。

(市長)

どうですか、ご意見はありますか。

(教育長)

目指す人づくりの所は、①から⑤の順番を入れ替える中で④に「社会に貢献する」、⑤に「世界に羽ばたく」というように広がりを持たせるようにしました。地域から、そして社会に、世界にと方向性を持たせるように考慮したもので、最後に「世界に羽ばたく」を持ってきています。もちろん世界に羽ばたく人ばかりではないのですが、その辺りも意識して作っています。

(横田委員)

基本理念の「ふるさとに学び」という部分を今の教育振興基本計画からずっと繋いできているのですが、ぜひお願いしたいこととして、学校教育で地域愛を重点的に教えていただきたいと思います。特に道徳で地域愛というものがどうしても薄れてくると言いますか、各学校の重点努力目標くらいの所に挙げていただければ繋がってくると思います。重視する考え

方の所にも道徳という言葉が出ていますので、各学校はそれぞれの地域を素材とした教材を取り上げていますが、ぜひ学校教育の中でもう少し力を入れていただければ、前回の教育振興基本計画から深まったような感じを受けるのではないかと思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

(市長)

基本理念がこれではいけないという意味ではなくて、これを受けて学校教育の道徳の中でしっかりやってほしいということですね。

(横田委員)

はい。

(市長)

分かりました。それは教育長にお願ひしたいと思ひます。

(教育長)

はい。道徳は、新しい学習指導要領に教科として入っていますので、まだ色々と考え方は検討中の段階ですが、道徳的な要素を、横田委員は地域愛と言われましたが、道徳で言う郷土愛に向けて、ふるさと学習の中でもう少し鮮明に出していけたらと思ひています。「ふるさとに学び 人が輝く」という部分で道徳心が少しでも前に出てくるといいと思ひます。

(市長)

道徳とは異なるかもしれませんが、学校教育の中でふるさとに関わる授業を行っていますね。例えば、凧作りをして凧揚げをするといったことを授業の中に取り入れていただいているようですが、道徳とは違うのですけれども、地元を愛するという意味で学校教育の中にそういうことも取り入れてもらっています。色々な各地域の風俗や習慣を取り入れた授業をやっているようですが、やはりふるさとをしっかりと見てもらって、子供達が地域に根ざした色々なことを体験しながら、その地域愛を育んでもらうといったことがあると思ひます。そういったことを道徳という意味で頑張ってもらいたいということですね。

(教育長)

今の田原の子供達の現状を見ますと、校区のことは比較的よく分かっているのですが、田原市全体のことをどれだけ分かっているかという部分が少し欠けているように感じます。政策推進部長が学校に行って話をした時に、中学3年生でも案外田原市の農業のことをあまり分かっていないということでした。私も表浜の小学校に勤めていた時ですが、すぐ前に海があるので、海から採れるものを含めて自然のすばらしさ、そして尊敬する部分子供達に伝わっていない、せっかく宝があるのに宝だと思ひていない部分もあって私も教育者の端くれとして責任を感じています。道徳での郷土愛を含めてですが、地域をもっと知る、自分の地域だけでなく市全体を、さらにもう少し広く世界まで見ていってくれるといいのですが、まずは田原市全体を皆で考えていきたいということがあります。そこら辺は、子供達だけでなく学校の教員も地域のことに対する理解が弱いと感じます。その原因としては、多忙化の中で、先生達も地域に出るよりも学校の中での色々な事務処理や何かで時間が取られているということがありますので、もう少し地域に出て、地域をしっかりと自分の目を見て、子供達と一緒に考えていくということが大事かと思ひます。地区の問題、そして市の問題を含めて、豊かな自然そして培った歴史・風土など色々ありますので、そういうことに対して、道徳も含めてもう少し目を向けていけたら、「人が輝く」という所に繋がってくるのではないかと感じています。

(山本委員)

私は平成 25 年に市の総合計画審議会に教育委員として出たのですが、その時に、幸せとは何かという議論をしました。市民が幸せと感じるかどうか、どうしたら幸せと

感じられるかということの基本理念に据えて、市民が幸せと感じるかどうか、自分自身、隣の人、そして子供達が幸せと感じられるかといったことを徹底的に考えました。先程から、この総合教育大綱・教育振興基本計画の中のどこで幸せを感じるだろうかと考えていたのですが、これはこれからの課題だと思います。これから少子化とか、田原市の人口は20年後には80%位になるのではないかと新聞に載っていたと思うのですが、その中で高齢者が増えていって、教育問題を取り上げる学校の子供が減ってくる、そして子供がいない地域も出てくると思います。教育と地域の色々なものがリンクしていかないといけない、その中で幸せを感じて生きていけるか、市民が幸せを感じてくれるのかというのはすごく大きな問題だと思います。今、教育委員会のことを話題にしているのですが、ぜひこれは実現していききたいと思います。それぞれの人の未来がどうなっていくかということを考えますと、私達も頑張っていけないといけないと思いました。

(市長)

山本委員がおっしゃったことですが、8ページに総合計画のまちづくりの理念として「みんなが幸福を実現できるまち」ということを書いていますけれども、そのことを捉えてというところでよろしいでしょうか。

(山本委員)

はい。

(市長)

この議論をしますと沢山意見が出てくると思いますけれども。

(教育長)

昨日の新聞に泉中学校の3年生の作文で、山本委員が言われたような幸福につながるその地区のすばらしさとして、あいさつすると地域の人があいさつしてくれる、修学旅行に行った時に東京の人は全然あいさつをしてくれないということを含めて、都会と田舎を比べて自分の住んでいる地域の良さを作文にしたものが載っていました。コピーを取っていますので、子供の中でそういったことが出ているということをもた皆さんと共有できたらと感じます。

(市長)

その他いかがでしょうか。土井委員、何かありましたらお願いします。

(土井委員)

特にないです。

(市長)

よろしいですか。

(土井委員)

はい。

(市長)

次に進むためにはこの大綱案を皆さん方にご承認いただけるかお聞きしないといけないのですが、まだご意見があるようでしたら伺います。

よろしいでしょうか。それではご承認いただけるということで次に進めていききたいと思います。よろしいでしょうか。

(一同)

はい。

(市長)

ありがとうございます。ご承認いただいたということで、次に進めさせていただきたい

と思います。この大綱については、この後、議会に報告をさせていただき、策定としてまいりたいと思っています。

それでは、次の協議事項（２）伊良湖岬中学校の統合について事務局から説明をお願いします。

（教育企画室長から協議事項（２）について説明）

（市長）

伊良湖岬中学校の統合について事務局から説明がありました。ここで決めるという訳ではありませんが、ご意見、ご質問等がありましたらお願いいたします。

（金原委員）

私もよく聞かれるのですけれども、旧渥美町の３中学校、泉、福江、伊良湖岬中学ですが、泉を含めて新しい中学校を１つ造ってはどうかという意見があるのですけれども、新設の中学校を造る考えはありますでしょうか。

（市長）

難しいですね、やはり。どうして新設中学校を造らなければいけないのかというのも１つありますね。渥美が１つだから１つというそういう考え方もない訳ではないのですけれども、３中学校を１つにして新設中学という話は今までに聞いたことはありますけれども、その実現についてどうかと聞かれても今のところはそういう気持ちはありません。何か悪いということがあればそれは考えなければいけないのですけれども、私は、旧渥美町の中の３中学どれをとっても悪いということはないと思うのですね。今回の問題というのは、児童生徒数の問題から出たと思うのですが、要するに小規模校だからということですよ。色々なことを考えて統合したいという話から出たことだと思うのですよ。よく新設中学をということを知るのであるけれども、新設中学をやりたいと言うと、それが一人歩きして新設中学を造るそうだとということになってしまいうけれども、今のところ新設中学は考えていません。伊良湖岬中と泉中が小規模化してきて、これをどこかに統合という話になったと思うのですけれども。横田委員いかがですか。

（横田委員）

２ページの今後の考え方で気になったのが、２つめの項目の上から２行目の所で「老朽化による改築更新時期を見据え来年度、学校全体の整備計画を策定する」ということで、新たにここでまた統合の問題が出てくるのではないかと、古い校舎は改築するよりも取り壊して統合させるというような所が出てくるのではないかと、その辺りが心配で分からなかったのですけれども。

（市長）

これはそういう意味ですか、違いますよね。

（教育部長）

これは、昨年作った学校全体の配置計画の改定ということも踏まえながら、それぞれの学校も老朽化していますので長寿命化にするのか改築にするのか、その辺りを市全体で考えていこう、そういった計画を作ろうと考えています。

（市長）

新設とかそういう意味ではないですよ。

（教育部長）

そういう意味ではないです。昭和４０年代、５０年代の建築物が多くありますので、それを改築していくのか、あるいは長寿命化で改修していくのか、その辺りを踏まえて検討してい

きたいと思っています。

(山本委員)

福江中学は築何年になるのですか。

(教育部長)

一番古い建物は昭和 39 年です。

(山本委員)

築 50 年位ですね。

(教育長)

築 50 年位の所が多くある中で、福江中で言いますと昭和 39 年にできた校舎と平成元年にできた校舎があります。築 50 年位の校舎を一気に更新することはできませんので、順番的なことも含めて、傷んでいる学校をどうしていくかということも視野に入れる中で、もしその時に統合が上手くいけばそこも考えてもらいし、住民にそうしたことを示す中で一緒に今後学校をどうしていくかということ、学校再編計画もありますが、そこに校舎改築や長寿命化を乗せてもう少しトータルに考えていけたらと思うのですがいかがでしょうか。

(山本委員)

なぜ建て替えなければならないのかということですが、今の校舎が使えなくてボロボロという程ではないように思いますし、実際に学校に行った時に建て替える程ひどいとは思われませんでした。学校を見て、例えば壁が少し汚れているとかはありますが、土台や柱にひびが入っているとか末期的症状そこまでいってしまえば直ぐに建て替えないといけません。どの程度が分からない段階で建て替えるという話を直ぐするよりも、やはり調査すべきだと思います。調査して本当にもうだめだということがなければ、新設中学はないという考えになると思うのですけれども。

(教育部長)

例えば、中部小学校の一番古い校舎は昭和 8 年に造った建物なのですが、真ん中の校舎を改築した時に一緒に長寿命化の改修をしてまだだいぶ持つと思います。同じように他の学校も使えるものは使うということで長寿命化をしていくのか、それとも改築した方がいいのか、その辺りを検討していきたいと思っています。

(山本委員)

住民の方は、なぜ新しい学校を建ててほしいと言われるのでしょうか。新しく見える学校がうらやましいということですか。

(教育部長)

伊良湖岬小の建物は、確か昭和 39 年位の古い建物です。

(山本委員)

伊良湖岬中もそうですよね。

(教育部長)

はい、そうです。

伊良湖岬中は結構老朽化して、中を見てもらえば分かると思いますけれども、建て替えが必要だということで今計画しているところです。

(山本委員)

福江中も昭和 39 年と先程言われましたよね。

(教育部長)

はい。昭和 39 年の建物もありますし、平成元年の建物もありますから、それをどうする

のか今後考えていきます。

(市長)

一気に校舎を作ったということではないということですね。古い建物もあるし、新しいものもある、そういうことですね。

(教育部長)

はい。計画するにも全部建て替えるのはいけませんし、古い部分を建て替えるのか、あるいは長寿命化するのか、その辺を計画していきたいということです。

(市長)

新設するにもきっと色々意見があるでしょうね。

(山本委員)

ここがいいとかですね。

(市長)

色々意見があると思いますし、それをどう集約していくかということもありますけれども、まずそれよりも統合についてどうかということがあります。

伊良湖岬中が全員、例えば福江中に行っても校舎には入れますか。

(教育部長)

入れます。

(市長)

校舎そのものには余裕があるということですね。

長寿命化対策というのは、例えばどういうことですか。部分改修ということですか。

(教育部長)

補強をしたり、改修したりといったことです。通常、RCの建物であれば47年が耐用年数ですが、これを70年、80年まで延ばしていくものです。

(市長)

例えば東部中学は早く建て替えてしまいましたが、それを考えると昭和39年の建物というのは相当古いということですね。

(金原委員)

伊良湖岬中の成り行きを泉中は見守っていると思います。地域で別れて福江中と赤羽根中に行ったら、恐らく泉もそういう形をとるのではないかと思います。伊良湖岬中のこととは直接関係しないのですけれども、この3年間で全ての小中学校を学校訪問しまして、大きい学校も小さい学校もありますけれども、やはり小さい学校にも小さい学校なりの良さがありますので、ここから先は私の個人的な意見ですけれども、小学校の統廃合はそう急いでやる必要はないのではないかという気がします。もう一度見直してもいいのかなと思っています。

(市長)

私も見直しということを書いてきたものですから、もちろんいつやるかということまでは言いませんけれども、やはり見直す必要はあると思っています。ただ、今回の伊良湖岬中の場合には、伊良湖岬小の建設場所がクローズアップされてきたということですよ。教育委員会の考え方というものを自分はまだよく分かっていないのでいけないのですけれども、統廃合は伊良湖岬中を先にやるべきだという考えはあるのですか。

(教育長)

今の状況も含めて、去年、今年、そして来年どうなるかという所を見ながら統廃合をやってきたのですが、小学校については、旧校区を含めて地域の小学校がなくなるということに

対する地域住民の反発と言うよりは悲壮感という部分を含めて、当初から順番に準備ができないまま案外早く動いた部分がありましたので、こんなはずではなかったという想定ができない部分が出てきたりして、恐らく想定はあったかもしれませんが、そういう点では今年になって動いた地域の方から、今日の資料にも色々な意見がある訳ですが、やはりもう少ししっかり見ながら進めていく必要があったのではないかと私は反省として感じていますけれども、他の委員の方々はどうでしょうか。

(金原委員)

私も少し急ぎすぎたのかなという感じはしています。渥美の先端の3小学校の場合は、津波のことがありますのでこれは仕方ないと思いますけれども、後の学校は、もう少しじっくり時間をかけた方がいいと思います。

(市長)

私も少し分かっていなくていけないのですけれども、津波のことと言うよりは、むしろ伊良湖小が複式学級になってしまう危機感から始まった話ですよ。

(教育部長)

それも1つあります。

(市長)

それもではなくて、それでしょう。

(教育部長)

それもありますし、堀切小の津波の問題、この2つが一緒の時期になったということです。

(市長)

私にはそれは少し納得がいかないのだけれども。そういうものではないと思っているけれども、何れにしても3つの小学校を統合したという事実これはもうできているので、それに沿って動いていかないとならないです。

(教育長)

市長が言われた小学校、中学校ということに関して、中学校については、教科の先生がその学校だけで十分賄いきれなくて非常勤の先生など色々な方に入ってもらってやっているのですが、ある意味、安定した教育がしづらい状況もあります。それから部活動も限られたり、メンバーが少なかったりというようなことで今まで通りやりづらい状況が少子化によって進んでいるというような状況の中で、地域の声からしてももう少し子供達により良い教育をとるという視点からすると、統合やむなし、ぜひそうしてほしいという声も中学の方が多く出ています。また、中学生のバス通学は、これからの流れの中でやっていく必要があると感じています。それから、新城、北設楽郡など山間部の状況も参考にさせてもらう中で、どこまでその学校で頑張ってもらえるかという部分についても、いいタイミングを見計らうという意味では中学校はそろそろタイミングで、伊良湖岬中が動くのであれば泉中も一緒に動きたいという声が出てきていますので、今、伊良湖岬中学校統合検討委員会、泉中学校再編検討委員会を持っているところですので、中学校の方が比較的動きやすいと言いますか、必要性が強いと感じています。

(市長)

中学校を先にということですよ。もちろん小規模校が悪い訳ではなくて、今言われたように小規模校は小規模校でいいこともありますので、それはそれでいいと思うのですけれども、中学校を先にというのは、今回は伊良湖岬中学校の統合を先にという考え方は、流れとしてはやはりこれが正しいのかな。

(教育長)

声を受ける中で中学校はそろそろということもあります。

(市長)

野田中はすっと決まってしまいましたので、困っているのではないかとも思うのですが、それは仕方ないですけども。

(横田委員)

私も中学校の統合については、今、教育長が言われたとおりで、保護者から部活の選択ができないということをよく聞きます。今の世の中、子供の選択を重視しているのに、部活の選択はできない、行きたくないと言いますかやりたくない部活をやっている、そこから不登校になってくる子供もいます。もう少し選択できるような中学校になってほしいという話を保護者からよく聞きますけれども、中学校に関しては、子供の気持ちからすると仕方ないかなという気がします。伊良湖岬中については、ここに書かれているように、保護者の声をぜひ聞いてほしいと思います。地域の役職の方よりも現実に子供を持っている保護者の意見をしっかり聞いて決めていった方がいいという気持ちでいます。

(市長)

やり方としては、そういうやり方をしてやるのですよ。とにかく意見を出してもらい、全員の保護者に意見を出してもらい、その中で決めていくというスタンスですので、それでいいかなと思っていますけれども、横田委員が言われましたように、保護者の意見が一番大きい、もちろん主役は子供ですので、子供と保護者の意見が一番大きいと思います。今、それで取り纏めているのですよね。とにかく意見を全部出してもらって、そこで決めていく。確かに地域の役員の方もお見えになりますけれども、やはり保護者、子供の意見が一番重いと思いますので、それで決めていきたいと思っています。

(山本委員)

子供が一番大事だと思います。学校で勉強し、友達関係を作る所ですので、子供が一番いい環境の中で学習できることが大事だと思いますし、教えている先生が一番感じているのではないかと思います。確か先生にアンケートを取ったことがあったと思うのですが、ほとんどの先生は、20人から30人位子供がいた方が接しやすいし、子供にとってもいい環境ではないかと答えられていたと思います。先生もそういうことを感じています。先生の意見も大事だと思います。

(市長)

これまでに子供の意見を纏めたものはありますか。

(教育長)

この間、伊良湖岬小のPTAが取った意見があります。12月に子供と保護者に分けたアンケートを行っていきまして、今日の定例教育委員会にも出したいと思っていますけれども、数字も出ていますので、それを見ていただいて、私達も一緒に子供の意見、保護者の意見を小学校と中学校の学年毎に取っていきまして傾向も見えていますので、本日夜の統合検討委員会で示して一緒に考えていきたいと思っています。そういったことを含めると、本年度末までに決めるということが難しく、来年度に少し決定時期が延びるという状況です。

(金原委員)

一番教えやすい人数は1学級何人位ですか。

(教育長)

適正規模というものを示したのですが、20人から30人の中ですね。それ位の人数が教えやすいです。例えば、英語などの場合は10人位でやれるといいと思いますので、半分ずつに分けてといった展開もできればと思います。

(市長)

それは1学級ですよ。

(教育長)

はい、1学級です。

(市長)

授業はそれでいいですけども、部活という話になりますとそれではできないものですから、クラス数の適正規模は2クラス以上でしたか。

(教育部長)

はい、2クラス以上です。

(市長)

2クラスというと最低60人位という話になってくると思います。それでも60人では好きな部活は実際できないですよ。ですからやはりもう少し大きくないと。

何れにしてもそういうことを含めて検討を進めていきたいと思いますが、27年度末というのは少し難しい、それでも28年度中には何とか決めていきたいとは思っていますけれども、今回はご意見をお聞きするということに留めたいと思います。ご意見がありましたらまた事務局に伝えていただきたいと思います。

それでは、次の「その他」、平成28年度一般会計予算案について説明をお願いします。

(教育部長から平成28年度一般会計予算案について説明)

(市長)

この予算案についてご意見、ご質問がありましたをお願いします。

冒頭のあいさつでも申し上げましたけれども、大変苦しい予算編成で、職員から沢山の予算要求がありました。そこから46億円カットしないといけないという事態になりまして、教育委員会からも沢山の要求があった訳ですけども、ここに落ち着いたということで、そういった予算案でございます。

(金原委員)

白谷海浜公園陸上競技場の改修ですが、第4種公認と第3種公認とではどのように違うのでしょうか。

(スポーツ課長)

白谷は造った時から第4種公認競技場で、公認記録が出せる競技場としては市内でここだけになっています。第4種公認競技場として使っていくためには、5年毎の更新が必要となりますので、今回は、公認を取るために写真判定システムの設置を予定しています。昔は手押しでも公認審判員がいれば公認記録として扱われていたのですけれども、今は自動計測器でないといけなくなりましたので、公認に必要な他の改修と併せて写真判定システムを取り入れる予定をしています。

(市長)

予算案については、この後の定例教育委員会でもやりますか。

(教育部長)

はい、もう少し細かな説明を予定しています。

(横田委員)

頭の中が上手くまとまらなくてまだ考えているのですけれども、オリンピックの誘致に今、市は一生懸命ですよ。弥八島のロングビーチの所を整備していくということで動こうとし

ている訳ですよ。一方で、旧赤羽根町としては、今、無医村ということで、診療所か病院を造ってほしいと地域から恐らく要望が出ていると思います。子供の医療関係のことをとでも心配しているのですけれども、サーファーの人達の怪我などで救急車が出動するということがよくある訳ですが、そのために子供達が怪我などした時に救急車が使えないといったことがないように、ぜひ、オリンピックの誘致の関係、旧赤羽根町の無医村の関係、小中学校の校医の関係も含めて、あの辺りに診療所とか何かできるといいなと思います。そういう体制が整ってオリンピックの誘致だと思うのですけれども、怪我をした時に渥美病院まで行くのに15分、20分かかりますので、健康福祉部の話かもしれませんが、子供達もサーファーの方々も、サーフィンをやりたい方々で定住する人達にとっても1つ診療所が必要だと思いますので、総合的に考えていただいて、上手くまとまっていないのですが、総合的にできるといいと思います。特に心配しているのが、子供達の病気や怪我で20分、30分もかけて渥美病院まで走らなければいけない旧赤羽根町の状況で、そのことを心配されている方々もいます。

(市長)

ちょうど今日、渥美病院の運営協議会があります。その中でその話はもちろん出てくるのですけれども、まだ検討の段階です。診療所を開設するのは確かに非常に難しいですね、確かにお金もすごくかかりますので。もう1つは訪問看護ステーションということも今、併せて考えています。その両方から考えていまして、渥美病院に投げかけています。これはどうということかと言いますと、総合病院を中心に考えた医療体制ということで考えています。できるだけ早いうちに結論が出ないかなと思っていますけれども、今のところ予算措置はありません。ありませんと言いますのは、決まったらどのような形でやるかということで予算措置をしていこうと思っているのですけれども、検討していない訳ではないです。渥美病院に対する助成についても、その辺を加味した助成を今回の予算案に入れていきます。先程言いました訪問看護ステーションというものを実は視野に入れているのですけれども、これからは在宅の看護、在宅の介護が中心になってきますので、これを含めた医療体制が赤羽根でできないかということで今検討を行っています。お医者さんについても、色々な所で呼びかけていますけれども、来てくれるのは今のところ無理です。それは、お医者さんもある程度商売というものがあるのかな、人口規模ということもありますので、これはどうしても渥美病院を介してやらなければお医者さんもなかなか来てもらいにくいということで、今日もその話を出しますけれども、結論が今直ぐ出る訳ではありませんが、できるだけ早いうちに赤羽根の医療体制の結論を出したいと思っています。おっしゃるとおりで、もう前から、山本先生が亡くなる前から言っていたのですけれども、結果的にこうなってしまうけれども、本当に真剣に考えていまして、上手くいけば今年中に結論が出せないかなと思っています。まだそこまで至っていませんが。

(山本委員)

知り合いを今思い出しました。

(市長)

来てくれませんか。

(山本委員)

聞いてみましょうか。

(市長)

ぜひお願いします。このような感じで色々な所で聞いているのですけれども、なかなか来てくれるというのは難しいのですけれどもね。サーファーの中にも実は1人いるのですけれども、現実的にはなかなか難しいようです。何れにしても訪問看護ステーションを含めた医療体制を考えて赤羽根をどうしていくのかということは何とか早く結論を出したいと思って

います。渥美病院がお医者さんを回してくれればいいのだけれどもという所までは来ていますけれども、渥美病院も内科医その他が少し少ないということがあって、その辺も加味した予算措置としていますので、今日はそういう話にきつとなると思いますけれども、強かにプッシュする予定をしています。

それでは、細かいことについては、この後の教育委員会の中でお話していただけるとありがたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。その他に何かありますでしょうか。

それでは、来年度の総合教育会議の予定ですけれども、6月議会後に来年度第1回目を開催したいと考えていますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

この後教育委員会もあるようですので、またその中で色々なご検討をいただきたいと思ひます。

それでは今日の議事は全て終了としまして、これもちまして第3回の田原市教育総合会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

(閉会 午前10時14分)